



道東 23 光報

道東地区教会連合会機関誌



'DÔTÔUKÔHÔ', Journal of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No.23 Oct.,2009

立教百五十年を迎えて

金光教帯広教会・田中敬一

今年、立教百五十年のお年柄です。このお年柄を迎えて、教区、教会で立教百五十年の意義についての研修や行事等それぞれ取り組んでおられると思います。教区においては立教百五十年記念金光教講演会をはじめ、各活動においてその意義や百五十にちなんだ行事を行っています。また八月八日から十一月十五日までの百日間を「立教百五十年百日信行期間」と定めて「このお道のおかげの自覚をもとに、信心生活を進める」を願いに全教そろえて信行が取り組まれています。

「表行より心行をせよ」というお教えがあります。

さらにその心行の例としてのみ教えがあります。

「人を不足に思わないで、物の事の不自由を行として、家業をつとめ、身分相応を過ごさぬよう儉約をし、だれにも言わないで行えば、これが心行である」と教えられています。

しかし、このみ教えのようにはなかなか生活ができない訳です。私の生活を振り返っても、妻に不足を言い、人にも不足を言い、暑さ寒さお天気のことなど、天地の恵みに対しても不足を言い、自分の都合のいいように考え、なるべく楽をして成果をあげたい、また見栄を張りたい。たくさんのご無礼が見あたります。

格言にも「知足るの人は、貧しくといえども富めり。不

知足るの人は、富むといえども貧し。」とあります。現代社会に効率化の追求、競争社会から「自分さえよければいい」「自分の力で何でもできる」という傾向があります。常に窮屈な社会にあります。私たちは信心によって心豊かにし、喜びをもつて、できないながらも少しずつ、一日一日、お礼を申し、行になるよう「ありがたさ」を求めさせていたきたいものです。

十月四日から立教百五十年生神金光大神大祭が本部で教主金光様ご祭主のもと仕えられます。生神金光大神取次の御業を教祖様お隠れの後、歴代金光様、現教主金光様が今日まで、それぞれに大変なご苦労とご修行、信心辛抱を

もって受け継ぎ現し続けてく
ださっております。それは五
代にわたって、変わるることな
く一日一日三六五日、百五十
年であり、そのご神勤、ご祈
念、御取次のお徳の中に、教
団があり、それぞれの教会が
あり、私たち信奉者一人ひと
りが祈られて、今日までおか
げをいただいております。

○
これまで信心によっておか
げを蒙ってまいりました。ま
た同じように将来に向けて教
えを実践し人に伝えて、神様
が願われている「神も助かり、
人間も立ち行く」働きをさせ
ていただきたいと思います。

道東地区各教会大祭日程

- ・ 釧路 十月十八日(日)
- ・ 北見 十一月 三日(祝)
- ・ 十勝 十二月二日(日)
- ・ 帯広 十一月 八日(日)
- ・ 網走 十月二五日(日)
- ・ 滝上 九月二七日(日)

教会掲示板

教会からあれこれ

帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地
TEL 〇一五五―三三―六八三五
FAX 〇一五五―三三―六八三五

今年の道東地区青年家族交
流会が去る八月二二日から
二三日に北見市で開催され
た。私はすでに青年ではない
が、三才と一才の孫とお嫁さ
んと共に久しぶりに参加をし
た。この度は、青年信奉者家
族の交流と芋掘りが企画され
た。私はこの企画というか芋
掘りを請け負ってにくれたこ
とに非常に有り難くお礼を申
さずにはおれないことがあ
る。

それは、芋掘りというのは、
焼き肉や料理、ゲームと違っ
て、行つてすぐにできるもの
ではない。昨年来より願ひ、
計画を立て、春先には種をま

き、天地の恵みを頂き、多く
の人の手を借りて、ようやく
実がなるのである。この芋が
できる間、天候不順、芋の病
気、開催日に合わせての出来
具合など心配事が多かった
と思われる。また、当日の天
気も気になる一つである。そ
れこそご都合お繰り合わせを
願つてのことだと思ふ。

これこそ教祖様が言われる
実意丁寧神信心の姿だと思ひ
ます。

実意とは、思いが行き届く
こと、丁寧は、行いが行き届
く事である。行き届いた思い
を持ち、それが形にまで行き
届いて現れるという生活態
度。(金光大神より)

この実意丁寧さに心を向け
られた横畠農場のみなさん
にお礼を申し上げたいと思ひ
ます。

当日は、天気にも恵まれ、
また多くの参加者、教会連合

会の方々のお世話を頂いて楽
しく芋掘りをさせていただき
ました。その後、孫はどれだ
け嬉しかったのか、芋掘りの
事を思い出し、芋の絵を描い
て見せてくれます。

(田中)

北見教会

北見市寿町三丁目五番一号
TEL 〇一五七―二四―七四七四
FAX 〇一五七―二四―七四七四

光報の原稿に頭を悩ませて
いた時、オバマ大統領がノー
ベル平和賞を授与されたとい
うニュースを眼にしました。
就任九ヶ月での授与は、きわ
めて珍しいそうですが、核兵
器のない世界を目指すとい
う、世界平和を推進する姿勢
を後押しする意味合いが強い
授与だとのことです。
オバマ大統領は、これから
の世界平和のために、敵対視
する国々との対話による信頼

関係を積極的に築きたいと常に語っているように、感情に流されず理性的な会話によって関係を強める方法を重要視しています。

これはまさに、二十数年前から始めている、本教の「良い話をしていく運動」の基本精神で、矢代礼紀先生が教監の時に、「宗教家の本来の仕事は、二十年三十年先を見据えて発言するものである。従って、予言者といわれる所以である」と言っていたとおり、世界の動きに先駆けて発信していた運動だったということがわかります。

信心して、願ったことにおかげを頂くことは大切なことです、同時に長い目で物事を見つつ、理想というものを語り続けることの大切さを改めて思わせられた出来事でした。

(矢代)

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

滝上入植百年祭は、これを記念品にしようとおもった冊子「源流は黒忠にあり」が、やはりなにもものにも代えられぬ記念品になった。

また、祭典前二時間かけて、岡本政道の足跡を探るバス旅行は、同乗した皆が感動するものになった。田んぼに水を引く堰堤を見学した時には、山中の高地に堰堤を作り、地形の高低差を利用して、そこからの灌漑溝掘削工事を竣工している。大正五年から工事にかかり、昭和五年に竣工を見ているが、岩盤が多く設計変更など、その度に公費増大になり工事中断を乗り越えての難工事であつたらしい。滝上入植百年祭は、道東地区各教会の応援を頂き、かつ

て滝上に関わりのあつた信奉者の方々の参拝、滝上に住んではいるが現在参拝されていない方々の参拝を頂いて、五十五名ほどの参拝があつた。

祭典後、十勝教会のご協力を得て、吉備舞が奉納され、参拝者皆「喜びの滝上入植百年祭」になったことと思う。金光教が滝上に痕跡を残し一時代が終わったが、素晴らしい信奉者の足跡を大切に、これから心の支えにして頂きたい。

(江郷)

釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号
TEL 〇一五四―四二―二三五一
FAX 〇一五四―四二―二三六一

釧路教会では、立教百五十年のお年柄にあたり、昨年釧路布教百年を期に『誰が、私に信心を伝えたか』をテーマ

に百日信行をしましたが、今年には立教百五十年百日信行を、『立教とは何か』に六月二十四日～九月三十日迄、毎朝五時三十分にご祈念に取組みました。

立教ということについては色々に考えられます。例えば、教祖生誕時、「九死一生」時、現在定説になっている「立教神伝」時、そして「大願の氏子助けるため、神が身代わりにさする」とした、教祖ご帰幽時等々、色々に考えられます。

はつきりしたことは、現在「立教」と考えられている立教は、教団として「この時を立教としよう」と決められた立教ではなく、その理由も個人の説によるものでした。

立教の受け取り方は、先人が受け取っているように、「天地の中に、生かされて生きている人間」として、教祖一人

が受けた神伝でなく、金光大神の信心をしようとする者、各々が受け取らねばならぬものであらう。

(江郷)

十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二二
TEL 〇一五五七一一二二三二
FAX 〇一五五七一一四二二三

早いもので今年も秋の大祭シーズンを迎えようとしています。今年は、金光教立教百五十年という節目の年にあたり、十勝教会でも二十代から九十歳まで二十七名の方が本部大祭にお参りさせていただくことが出来ました。

さて、今年は教団にとって特別な年にあたりましたが、我々末端の教会では、団体参拝や記念講演会、信行期間というものをのぞけば別段普段の年と変わらなかったような気がします。全国の教会が一

年間奉祝の幟をあげるとか、

一年間全教一斉に御祈念をするとかいうようなまさに「教団をあげて」というムードではなかったように感じます。

これを「金光教らしい」と見るか、「物足りない」と見るかは論者の主観にお任せしますが、そのような記念の年の様子を通して、金光教の活動・実践は頂点によって統率されるものではなく、主体はそれぞれの「教会」であり「信奉者ひとりひとり」であるということを今一度確認させてもらったような気がします。

「立教」という要点をはじめ、天地金乃神様と教祖様の関係から生まれた金光教の信心を、我々ひとりひとりが、どう受け止め、どう実践していくのか、責任は教会、そして我々ひとりひとりにあります。

(玉置)

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地
TEL 〇一五二一四三一三九五四
FAX 〇一五二一四三一三九五四

網走教会から発行している

「ななかまど(信徒会便り)」第一号が平成二年六月に創刊され、今年で二十年目を迎えました。これは、元網走教会信徒総代並びに信徒会長であったSさんが当時の教会の諸事情を考え、信奉者間の連携と情報交換の場の必要性を感じて提案なされたことに始まりました。

初めの十年間をSさんが編集、発行のご用に当たられました。発行發送作業については奥さんもお用なさっておられました。編集と記事集めはどうしてもSさん一人になってしまします。

発刊から十年目の138号にSさんが次のように書いておられます。

「・・・いざ発行することになりますと、そう簡単なものではありませんでした。実務は誰か有能な人にやって貰おうと、簡単に考えておりましたが、誰も名乗りを上げてくれません。言い出しつぺなので自分でやることにしたのですが、先ずワープロを買わなければなりません。そして、その操作を取扱説明書で、一から勉強したのです。」

と、創刊に当たってのご苦労の一端が語られています。齢七十にしてワープロに挑戦なさったんです。驚きです。最初は人差し指でキーを一つ一つ打っていたとも聞いたことがあります。

また、この十年を振り返っての思いも語られています。

「・・・今月号で138号となりました。果たして皆さんのお役に立てたのかと思うと疑問です。それでも作成者としては、無い知恵をしぼって書いて来たのですから、その努力だけは認めて下さい。かつて『明治は遠くなりけり』という言葉がありましたが、大正も遠くなりました。」

努力を認めるどころか、その功績は多大了。教会存続の危機と言われるような時にも、この「信徒会便り」は変わらずに発行され、教会と信者さんを繋ぐ大きな役割を担ってくれていました。

平成十二年十月末にSさん御夫妻は札幌に住む娘さんのところに引き移り、ご信心は札幌南教会へ月参りをなさっていました。Sさんは色々な

病気を抱えながらも「自分は幸せです。自分のことでは神様にはお礼しかありません。願うことと言えは妻と娘のことです。」とお礼の信心を進められたそうです。

そして今年八十八歳の米寿のお祝いを娘さん方と過ごされ、九月十五日に親神様のもとへご帰幽になられました。

ちょうど、会議や研修で札幌へ行っていた私は、札幌南の先生から声をかけてもらい、ご遺族から是非にという事で、お葬儀のご用にお使い頂くことができました。網走で日参なさっていたときのこと、「信徒会便り」作成のご苦労など、種々のことが偲ばれ、同時に親神様の絶妙なるご都合お繰り合わせ、お計らいを感じました。

(菊川)

行事報告

◆立教一五〇年記念金光教講演会(本部主催)

- ・月 日 6月21日(日)
- ・会 場 札幌市ホテル・ノースシティ
- ・講 師 井出美智雄先生(福岡県行橋教会)
- ・テーマ 「光に向かって進む」
- ・参加者 285名
- ・開会のアトラクションとして吉備舞が披露された。
- ・参加者を代表して、道東地区からS氏が「願いのことばを表明した」

◆第八回道東地区教会連合会 交流パークゴルフ大会

- ・月 日 7月12日(日)
- ・会 場 北見市常呂森林公園パークゴルフ場
- ・参加者 32名
- ・パークゴルフと懇親会
- ・団体優勝 網走教会
- ・個人優勝 帯広教会Tさん

◆道東地区教会連合会研修会

- ・月 日 7月25日(土)
- ・会 場 十勝教会
- ・内 容 提言を受けて懇談
- ・テーマ シリーズ「教祖様の伝えたかったこと」

・提言 菊川松次郎先生（網走）

・終了後懇親会を行った。

・参加者 24名

▼道東地区「あいよかけよの集い」（教務センター共催）

・月 日 7月26日（日）

・会 場 十勝教会

・内 容 提言を受けて班別懇談

・テーマ 「共に助かる世界を生みだそう！人の助かりを我が助かりに 人の喜びを我が喜びに」

助かりに 人の喜びを我が喜びに」

・提言者 運動推進員

・参加者 26名

▼立教150年記念北海道教区青少年の集い

150K-I-T-A・夏の大作戦!!

（教務センター、各教会連合会共催）

・月 日 8月7日（金）～9（日）

・会 場 東川町キトウシ森林公園家族旅行村

・内 容 ゲーム大会、15キロ強歩、料理、流しそうめん、

なぜなに金光教（青年対象）など

・参加者 53名（道東地区3教会20名）

道東地区教会連合会ホームページ <http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/DOTO>

▼道東地区青年家族交流会

・月 日 8月22日（土）～23日（日）

・会 場 北見市山のうえ展望広場キャンプ場

同・横畠農場

・内 容 懇親会と芋掘り

・参加者 32名

願いのことば

私どもは、このお道の信心を進めさせていただき、厳しい現代の世を生きぬく力を頂いておりますことにお礼を申し上げ、私ども北海道の信奉者は、このお道の働きを立教百五十年を機として、いつそうわがいのち、わが生き方のうえに頂きたいと願います。そして、北海道の大地に生きる人々の立ち行くと助かりを願いますとともに、世界に生きる人々の立ち行くと助かりを願います。私どもが、それぞれの持ち場立場で、神と人があいよかけよで立ち行く喜びの生活を進めさせていただき、心豊かで平和な暮らしが営まれる世となりますよう、お願い申し上げます。